

汗、遣統廻紇僕骨同羅思結阿跌等部」と記せども、亦貞觀三年の入朝を記さず、されば此の年の來朝は或は唐書編者の臆斷に出でたるには非ずやとも疑はるれど、通典には菩薩が天山に突厥の軍を破りしことを記したる續きに「廻紇由是率其衆附於薛延陀、號爲活頡利發、仍遣使朝貢」と記せり、此の朝貢は年代上唐書の貞觀三年來朝の記事と應ずべきものなれば、未だ必ずしも唐書の記事を以て臆斷に出でたりとは爲す可らず、茲には暫く之を以て唐と回鶻との交渉の生ぜし初めと見んとす、然も此の後菩薩の時代に於て、兩者の關係が如何なりしかは殆んど全く知る可らず、僅に舊唐書廻紇傳に前記の如く北突厥の莫賀咄を可汗と爲し、之をして廻紇僕骨同羅阿跌等の部を統べしめたりしことを記し、冊府元龜<sup>卷九</sup>助國討伐篇にも、北突厥を西突厥と記せる相違の外、之と同一の記事を載するあるのみ、舊唐書に北突厥と記せるものは、新唐書に東突厥と稱するものなれば、舊唐書が北突厥莫賀咄と記し、冊府元龜が西突厥莫賀咄と記せるは、何れか一方の誤と見ざる可らず、思ふに貞觀四年頡利可汗來降の後、東突厥の莫賀咄を可汗としたりしが如きは勿論諸書の載せざる所にして、信ず可らざるに反し、西突厥にては統葉護可汗は貞觀四年<sup>(三〇)</sup>其の諸父莫賀咄の爲に殺され、莫賀咄は自立して可汗と稱し、使者を遣して唐に來獻し、又同年婚を請ひしことも記さるれば、こゝに莫賀咄と曰ふは冊府元龜の西突厥莫賀咄と記せるを以て正しとせざる可らず、されば唐は頡利可汗降伏の後、一時西突厥の莫賀咄即ち屈利俟毗可汗をして、回鶻を始め僕骨同羅思結阿跌等の鐵勒諸部を統べしめんとしたるものなるべけれど、莫賀咄は此の後間も無く殺され、肆葉護が西突厥可汗となりしこと兩唐書に見ゆるが如くなれば、此の時に於ける唐の政策は殆んど遂行せらるゝには至らざりしなるべく、前述の如く回鶻は頡利の降伏後、薛延陀の下に屬するに至りしものなりとす。